

## ◆世田谷郵便局の沿革

世田谷郵便局の沿革については、不思議なことに、諸説あり、定説が定まっていないのが現状である。関係資料は、複数存在するが、それぞれ不十分で、不完全なものが多い。

世田谷郵便局の沿革について、各資料の調査・比較・検討を行い、現時点で、分かったこととわからないこと等を、ご紹介・ご報告したい。

- 資料①「明治郵便局名録」の該当部分の紹介
  - 資料②「新版・明治郵便局名録」の該当部分の紹介
    - ▲資料①と資料②との細かな相違点と類似点
  - 資料③「全国郵便局沿革録」の該当部分の紹介
  - 資料④「世田谷郵便局 業務概要」の該当部分の紹介
    - ▲資料③と資料④との相違点と補足
      - 1、世田谷郵便局の前身とされる「目黒郵便局」はどこに設置されたか。
        - ※上目黒村と世田谷との関係
        - △目黒郵便局の設置場所に関する説を補強する材料
      - 2、資料④と資料③との共通点
    - 図版の紹介
  - 資料⑤「ウィキペディア」の記事の紹介
  - 資料④「世田谷郵便局 業務概要」の紹介(再)
  - 資料⑥「日本郵便局名鑑」の該当部分の紹介
    - ▲資料④・資料⑤と資料⑥との比較、および資料⑥と資料①②③との比較
      - 1、資料⑥の主張「世田ヶ谷郵便局」
      - 2、
      - 3、
      - 4、
    - 『日本郵便局名鑑』の紹介
  - 資料⑧「局所原簿」の該当部分の紹介
    - ▲資料⑧と資料⑥の比較検討
      - 1、「目黒郵便局」の設置場所
      - 2、「世田ヶ谷郵便局」への改称に関して
      - 3、「世田ヶ谷郵便局」の移転に関して
      - 4、「世田ヶ谷郵便局」の特定3等局への改定に関して
      - 5、「世田ヶ谷郵便局」の2等局への改定に関して
  - 資料⑨「某郵趣研究家の資料」の該当部分の紹介
  - 資料⑦「某郵便局長の資料」の該当部分の紹介
    - 各種資料の(時系列的)まとめ
  - ◎世田谷郵便局の沿革に関するまとめ → 仮説の紹介
    - 仮説1
    - 仮説2
    - 仮説3
    - 仮説4
    - 仮説5
    - 仮説6
    - 仮説7
- おわりに

## ◆世田谷郵便局の局名表記の変遷

- 1、明治期 - 二重丸印、丸一印、楕型印
- 2、大正期 - 楕型印
- 3、昭和期 - 楕型印、機械印

◆世田谷郵便局の沿革

稲門切手教室 資料

世田谷郵便局の沿革については、不思議なことに、諸説あり、定説が定まってないのが現状である。関係資料は、複数存在するが、それぞれ不十分で、不完全なものが多い。

世田谷郵便局の沿革について、各資料の調査・比較・検討を行い、現時点で、分かったこととわからないこと等を、ご紹介・ご報告したい。

●「明治郵便局名録」田辺卓躬篇 二重丸印の会発行 (株)鳴美 発売(資料①)によれば

年	明治郵便局名録(資料①) 武蔵国荏原郡	備考
明治8年	10月-世田谷郵便局と称し、五等局として開局。(武蔵国荏原郡)	※1
明治9年	KG朱印使用例	※2
明治13年	KG印使用例	
明治14年	5月23日-(世田谷郵便局は)四等局となる。	※3
明治18年	KG印使用例	※4
明治19年	三等局に昇格。	※5
明治20年	KG印使用例	
明治21年	丸一印に変わる。	明治21年9月1日～

●「新版・明治郵便局名録」(資料②)によれば

年	『新版 明治郵便局名録』(資料②)では、250490世田谷	備考
明治8年	8月1日-五等局として開設、と月日を加筆・修正。(武蔵国荏原郡)	※6
明治9年	KG印朱(ケ)使用例	※7 (ケ)
明治13年	KG印使用例	
明治14年	5月23日-四等局となる。	※8
明治18年		
明治19年	三等局に昇格。	※9
明治20年	KG印(ケ)使用例	※10 (ケ)
明治21年	丸一印に変わる。	明治21年9月1日～

▲資料①と資料②の細かな相違点と類似点

- ※1 資料①では、世田谷郵便局の開局日を10月としていたが、資料②では、8月1日(※6)としている。世田谷郵便局の開局日は、明治8年8月1日と理解する。
- ※2 資料①では、「KG朱印」としていたが、資料②では、「KG印朱(ケ)」としているので、二重丸印KG型の「世田ヶ谷」局が存在していたのかも知れない。(要調査)
- ※3※8 世田谷郵便局が四等局になった日付は、資料①と資料②とも同じ5月23日である。
- ※4 資料①で記載されていたKG印使用例が、資料②では削除されている。
- ※5※9 世田谷郵便局が三等局になった日付は、資料①も資料②も記載されていない。
- ※10 資料②には、「KG(ケ)」とあり、明治20年には、二重丸印KG型の「世田ヶ谷」印が存在していたことが窺える。

●世田谷局 関連資料-「全国郵便局沿革録」(資料③)を中心に

年	世田谷郵便局(若林)	世田ヶ谷郵便局(池尻)	目黒郵便局(上目黒)	備考
明治8年	10月-世田谷郵便局(五等)開局(大山道若林村)。			※11 若林村
明治14年	7月25日-四等局になる。			※12
明治19年	4月26日-三等局になる。			※13
明治xx年		x月x日-世田ヶ谷局開設		※
明治21年		8月13日-世田ヶ谷局(二重丸)使用例		図1
明治22年		2月22日-世田ヶ谷局(丸一)使用例		図2
明治32年			10月1日-目黒郵便局(三等)開局。※14 上目黒村(大山道上目黒村大橋)	
明治37年		2月16日-世田ヶ谷局使用例		図3
明治37年	3月30日-世田谷郵便局廃止。			※15
明治37年			3月31日-目黒郵便局廃止。(池尻村の世田谷局へ引き継ぎ)※16	
明治37年		4月1日-開局(三等郵便局)。(目黒局より引き継ぎ)		※17 池尻村
明治37年	4月?日-世田谷若林受取所(再設)。			※18 若林
明治38年	4月1日-世田谷若林郵便局(無集配三等局)となる。			※19 若林
明治39年		1月1日-世田谷局と改称。		※20 池尻
明治39年	11月1日-世田谷上町へ移転改称。			※21
明治43年		1月1日-樞型初日印世田谷局※使用例		図4 池尻

●世田谷局 関係資料④ 世田谷郵便局「業務概要」

年	関係資料④ 業務概要	世田谷郵便局(池尻)→(太子堂)→(三軒茶屋)	備考
明治32年	10月1日-目黒郵便局と称し、集配業務を取り扱う三等局として開設する。	(世田谷村大字池尻179)	※22
明治37年		3月31日-世田谷郵便局と局名改称する。	※23
大正7年		5月16日-特定三等局に種別改定。	※24
大正11年		11月11日-二等局に昇格する。	※25
大正14年		12月22日-火災により焼失する。	
昭和2年		2月25日-新築移転する(太子堂4-2-7)。	
昭和12年		8月10日-一等局に昇格する。	※26
昭和26年		4月1日-普通郵便局に種別改定となる。	
昭和55年		3月3日-世田谷区三軒茶屋二丁目に移転。	

▲資料③と資料④との相違点と補足

- ※22 資料④業務概要では、「目黒郵便局と称し、集配業務を行う三等局として開設。(世田谷村大字池尻179)」とあるが、「目黒郵便局」の設置場所が「世田谷村」というのは不自然ではないか。資料として比較すると、資料③の「目黒郵便局は、上目黒村大橋に開設された」とする方が自然である。

※上目黒村と世田谷との関係

明治11年 武蔵国荏原郡発足。旧荏原郡世田谷領(世田ヶ谷村他)と旧荏原郡馬込領(上目黒村他)とが荏原郡に含まれる。

明治22年 5月1日-市制の施行により東京市が発足。町村制の施行により、荏原郡(1889) 内に目黒村(上目黒村を含む4村が合併)が含まれる。上・中・下目黒/三田

明治32年 10月1日-目黒郵便局(目黒村=旧上目黒村大橋に)が開設。

明治37年 3月31日-目黒郵便局廃止。

明治37年 4月1日-世田ヶ谷郵便局設置(目黒郵便局の引継ぎ局として)。

大正11年 12月1日-目黒村は目黒町になる。

昭和7年 10月1日-荏原郡は東京市に編入。(荏原郡を含む5郡の82町村で構成)。この時、目黒町と碑衾町の地域をもって目黒区が新設された。

△目黒郵便局は、「目黒村内=旧上目黒村に設置された」説を補強する材料。

そもそも「目黒郵便局」は、「駒沢練兵場」が出来たため、移動して来ていた騎兵第一大隊等の通信(郵便)の便宜を図るため、近くに設置された。駒沢練兵場は、現在の目黒区東山2丁目周辺にあったといわれており、東山の地名の由来は、旧荏原郡上目黒村東山であり、上目黒村の中心地である宿山の東にあったことから来ている。

・駒沢練兵場周辺の兵営

明治24年-騎兵第1大隊営(後に連隊)

明治25年-近衛輜重(しちよう)兵大隊第1中隊営(のち連隊)

※輜重兵とは、弾薬や食料の輸送を任務とする兵隊。

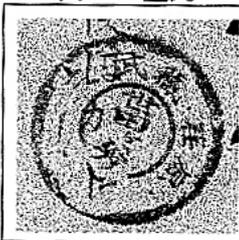
(明治30年-駒場野の南に駒沢練兵場が設置される。)

その後、野砲兵第1連隊営・近衛野砲連隊営・砲兵旅団司令部・野戦重砲兵第8連隊営ができて、主に、これらの軍隊が駒沢練兵場で訓練を受けた。軍事施設が出現して、三宿辺りには、兵隊やその家族相手の店や旅館が軒を並べるようになった。兵営の周辺が、ことに賑わったのは、兵役の交代期であった。兵役を終えた兵隊と家族が再会を喜び、新しく入営する者の親類縁者は「祝入営」と書いたのぼりを立てて見送った。入営前夜は兵営近くの旅館に家族と共に泊まり、別れを惜しんだ。

※問合せ先 目黒区区民の声課 区政情報コーナー 03-5722-9480

- ※23 資料④業務概要では、明治37年3月31日に、目黒郵便局の業務を引継ぎ、世田谷郵便局と改称した、としている。資料③全国郵便局沿革録備考欄の※16と呼応するもの。

図1 二重丸



世田ヶ谷 21年8月13日

図2 丸一



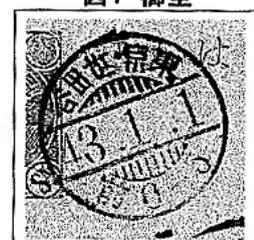
世田ヶ谷 22年2月22日

図3 丸一



世田ヶ谷 37年2月16日

図4 楕型



東京・世田谷43.1.1

●世田谷局 関係資料「ウィキペディア」(資料⑤)

年	ウィキペディア(資料⑤)	備考	資料③
明治32年	10月1日-目黒郵便局(三等)として開局。	※27	上目黒村
明治32年	11月1日-貯金・為替取扱を開始。	※28	
明治37年	4月1日-目黒郵便局を廃止し、引継ぎ局として世田ヶ谷郵便局(三等)を設置。 なお、従来の世田谷郵便局は廃止され世田谷若林郵便受取所が設置された。		池尻村 若林村
明治39年	1月1日-(世田ヶ谷郵便局を)世田谷郵便局に改称。	※29	池尻村
昭和55年	3月3日-世田谷太子堂四丁目から同区三軒茶屋二丁目に移転。	※30	

●世田谷局 関係資料④ 世田谷郵便局「業務概要」01045世田谷局

年	関係資料④ 業務概要	世田谷郵便局(池尻)→(太子堂)→(三軒茶屋)	備考
明治32年	10月1日-目黒郵便局と称し、集配業務を取り扱う三等局として開設する。 (世田谷村大字池尻179)		※22(既出)
明治37年		3月31日-世田谷郵便局と局名改称する。	※23(既出)
大正7年		5月16日-特定三等局に種別改定。	※24(既出)
大正11年		11月11日-二等局に昇格する。	※25(既出)
大正14年		12月22日-火災により焼失する。	※31
昭和2年		2月25日-新築移転する(太子堂4-2-7)。	※32
昭和12年		8月10日-一等局に昇格する。	※26(既出)
昭和26年		4月1日-普通郵便局に種別改定となる。	※33
昭和55年		3月3日-世田谷区三軒茶屋二丁目に移転。	※34

●「日本郵便局名鑑」(資料⑥)によれば

年	「日本郵便局名鑑」(資料⑥)	備考
明治8年	8月1日-「世田ヶ谷郵便局」五等局として開設。荏原郡	※35
明治14年	7月25日-「世田ヶ谷郵便局」は四等局に改定。	※36
明治19年	4月26日-「世田ヶ谷郵便局」は三等局郵便局に昇格。	※37
明治37年	3月30日-(世田ヶ谷郵便局)廃止。	※38
明治37年	3月31日-「世田ヶ谷郵便局」と改称。	※39
明治39年	1月1日-「世田谷郵便局」に改称。	※40 資料⑤
昭和12年	8月10日-「世田谷郵便局」は一等局に改定。	※41 資料④
昭和16年	2月1日-「世田谷郵便局」は普通郵便局に改定。	※42

▲資料④、資料⑤および資料⑥の比較、そして今までの資料①②③との比較

- ※35 資料⑥「日本郵便局名鑑」は、既存の資料の「世田谷郵便局」説をほとんどを覆した。資料⑥では、「世田谷郵便局」は『世田谷郵便局』ではなく、『世田ヶ谷郵便局』として開設された、とする。従来の資料と比較してみると、
  - ・資料①「明治郵便局名録」は、「世田谷郵便局」(五等)として開設された、とする。※1
  - ・資料②「新版 明治郵便局名録」は、明治8年8月1日「世田谷郵便局」(五等)として開設された、とする。※6
  - ・資料③「全国郵便局沿革録」は、明治8年10月x日「世田谷郵便局」(五等)として開設された、とする。※11
  - ・資料④も『世田ヶ谷郵便局』の名称が出て来ないので、「世田谷郵便局」から始まったと考えている、と見做すことができる。
 ○資料⑥「日本郵便局名鑑」を仮に「世田ヶ谷郵便局派」とすれば、資料①②③④は『世田谷郵便局派』と言えるだろう。
- ※36、※37 資料⑥の四等局に改定、三等局に改定の年月日は、ほぼ間違っていない。が、局名の『世田ヶ谷郵便局』のみが疑問点。
- ※38 資料⑥「日本郵便局名鑑」は、明治37年3月30日に「世田ヶ谷郵便局廃止」としているが、翌日の明治37年3月31日に「世田ヶ谷郵便局に改称」としている(※39)。これは意味不明である。(※引継ぎ・局名改称等に何らかの事情が隠れているかも?)
- ※42 資料⑥「日本郵便局名鑑」は、昭和16年2月1日「世田谷郵便局」が普通郵便局に改定とあるが、他の資料と異なっており、再度の調査が必要である。資料④「業務概要」は、昭和26年4月1日に「世田谷郵便局」が普通郵便局に改定されたとしている。(※33)

ちなみに、『日本郵便局名鑑』は、最新刊行の資料であり、「完璧なもの」と云われている。

森 寿博 編『日本郵便局名鑑』平成26年10月刊行

都道府県別50音順郵便局名簿 上下2冊計3,750頁上製本箱入 定価 18,000円

『世田ヶ谷郵便局派』は、資料⑥「日本郵便局名鑑」だけでなく、他に援軍が存在する。  
ただし、「世田ヶ谷郵便局」の出現時期等は資料⑥とやや異なる。

●『局所原簿』(資料⑧)によれば

年	『局所原簿』(資料⑧)	備 考
明治32年	10月1日-『目黒郵便局』開設。(荏原郡世田谷村大字池尻179)	※43 集配3等
明治37年	3月30日-移転・改称、『世田ヶ谷郵便局』となる。	※44
明治42年	8月7日-『世田ヶ谷郵便局』移転。荏原郡世田ヶ谷町大字三宿南宿	※45 町制施行
大正 8年	4月11日-『世田ヶ谷郵便局』特定3等局に改定。	※46
大正11年	11月11日-『世田ヶ谷郵便局』2等局に改定。	※47
大正14年	12月22日-『世田ヶ谷郵便局』自家出火。	※48
昭和11年	12月25日-移転。荏原郡世田ヶ谷町大字太子堂字西山472-4	※49 移転
昭和 7年	10月1日-『世田谷郵便局』移転。東京市世田谷区太子堂町472-4	※50 移転 告示第1780号
昭和18年	7月1日-行政区変更。東京都世田谷区太子堂472-4	
昭和36年	5月22日-東京都世田谷区上馬2-53	仮移転
昭和37年	7月24日-東京都世田谷区太子堂472	移転
昭和41年	11月26日-東京都世田谷区太子堂4-2-7	新住居表示
昭和55年	3月3日-東京都世田谷区三軒茶屋2-1-1	移転
明治37年	3月31日-『若林郵便局』開設。荏原郡世田ヶ谷町大字世田谷	※51集配受持は「世田ヶ谷」局
明治38年	12月8日-『世田谷上町郵便局』に、移転改称。	※52
昭和 7年	10月1日-『世田谷一郵便局』に行政区域変更。	※53集配受持は「世田谷」局

▲資料⑧と資料⑥の比較検討

- ※43 資料⑧「局所原簿」では、「目黒郵便局」(集配三等)は「荏原郡世田谷村池尻179」に開設された、としている。これは、すでに(資料③と資料④との比較の項で)述べたように「目黒郵便局」は荏原郡目黒村(旧上目黒村大橋)に設置されたと考える方が自然である。
- ※44 資料⑧「局所原簿」は、目黒郵便局は明治37年3月30日、移転し、「世田ヶ谷郵便局」に改称されたとしている。これは、資料⑥「日本郵便局名鑑」の「明治37年3月31日世田ヶ谷郵便局と改称(※39)とほぼ符合する。(※日付の1日違いの部分に何かがあるかもしれない)
- ※45 資料⑧「局所原簿」は、明治42年8月7日『世田ヶ谷郵便局』移転としているが、他の資料(③⑤⑥)にある通り、「世田ヶ谷郵便局」は明治39年1月1日に「世田谷郵便局」と改称しており、この移転は「世田谷郵便局」とすべきである。
- ※46 資料⑧の、大正8年4月11日『世田ヶ谷郵便局』特定3等局に改定、とある部分も誤りであり、これは「世田谷郵便局」特定3等局に改定、とする方が正しい。
- ※47 資料⑧の『世田ヶ谷郵便局』2等局に改定、とある部分も、正しくは「世田谷郵便局」2等局に改定、とすべきものである。資料④「業務概要」※25参照

『世田ヶ谷郵便局』派は、更に存在する。

●「某郵趣研究家」資料⑨

年	「某郵趣研究家」資料⑨	備 考
明治 8年	10月-初代世田ヶ谷郵便局は、五等局として開局。(武蔵国荏原郡)。	
明治32年	10月1日-『目黒郵便局』開設。(荏原郡世田谷村大字池尻179)	集配
明治37年	3月30日-初代世田ヶ谷郵便局は廃局となる。	「無集配」
明治37年	目黒郵便局移転・改称し『二代目世田ヶ谷郵便局』となる。	集配
明治37年	3月31日-初代世田ヶ谷郵便局の後継局所「若林郵便取扱所」開設。	「無集配」
	初代世田ヶ谷郵便局の為替貯金記号番号は「#74いいて」。	
	二代目世田ヶ谷郵便局の為替貯金記号番号は「#136いはへ」。	

●「某郵便局長」(資料⑦)

年	「某郵便局長」(資料⑦) 為替貯金番号01019	備考
明治xx年	xx月xx日-「世田谷郵便御用取扱所」として開設	無集配
明治8年	8月1日-世田谷郵便局(五等)となる。	資料②
明治8年	10月-世田谷郵便局(五等)となる。	資料①③x
明治13年	KG印使用例	資料②
明治14年	5月23日-(世田谷郵便局は)四等局となる。	資料②x
明治14年	7月25日-(世田谷郵便局は)四等局となる。	資料③
明治18年	KG印使用例	資料②
明治19年	2月16日-「世田谷郵便局」貯金預所となる。 為替貯金記号番号 #74いいて	資料③ 番号01019
明治19年	4月26日-世田谷郵便局は三等局に昇格。	資料③
明治20年	KG印使用例	資料①
明治21年	丸一印に変わる。	明治21年9月1日~
明治25年	2月1日-世田谷為替取扱所となる。 為替貯金記号番号 #74いいて	資料③ 番号01019
明治37年	3月30日-世田谷郵便局廃止。	資料③
明治37年	3月31日-若林郵便局開局。	資料⑧x
明治37年	4月x日-世田谷若林郵便受取所として再設。	資料③
明治38年	4月1日-世田谷若林郵便局(無集配三等)。	資料③
明治39年	1月1日-世田ヶ谷郵便局は世田谷郵便局となる。 為替貯金記号番号 #136いはへ	資料③⑤⑥ 番号01045
明治39年	11月1日-世田谷上町郵便局となる。(移転改称)	資料③
昭和7年	10月1日-世田谷一郵便局となる。 為替貯金番号01019	資料⑧

※為替貯金記号番号等の設定時期は不明

◎世田谷郵便局の沿革に関するまとめ に代えて 仮説の紹介。

仮説1 世田谷郵便局は、明治6~8年頃、「世田谷郵便御用取扱所」として開設された。

仮説2 「世田谷郵便御用取扱所」の設置場所は、荏原郡若林村である。

仮説3 「世田谷郵便御用取扱所」は、明治8年8月1日(あるいは同年10月)に世田谷郵便局(五等)となる。  
※ただし、集配機能を持つ局か集配機能を持たない局かは不明。

仮説4 明治9年ころ、「世田ヶ谷郵便局」が開設された。 ※7  
※使用例(消印-KG型)発見による確認が望まれる。

仮説5 (明治9年頃でなければ)明治20年ころ、「世田ヶ谷郵便局」が開設された。 ※10  
※使用例(消印-KG型)発見による確認が望まれる。

仮説6 資料⑥「日本郵便局名鑑」が、もし正しいとすれば、「世田ヶ谷郵便局」は荏原郡池尻村に開設された、と考えられる。  
※ただし、先に開設されたのは「世田谷郵便御用取扱所」(=世田谷郵便局)である。

仮説7 明治37年3月末から同年4月初めにかけての状況は、仮説というより想像の世界の話となるが、次のように推定する。  
①世田ヶ谷郵便局(「集配」局-池尻村)が出来て、非集配であった世田谷郵便局は、局の名称を譲り渡すことになり、明治37年3月30日、一旦、廃止の形をとった。  
②目黒郵便局(集配局)が、所期の目的・役割を終えて明治37年3月31日廃局された。  
③明治37年3月31日、世田ヶ谷郵便局(池尻)は(新)「世田谷郵便局」と改称し、目黒郵便局の業務を引き継いだ。  
④明治37年4月1日、(新)世田谷郵便局は(新)「世田ヶ谷郵便局」(池尻)と改称した。  
⑤明治37年3月30日に一旦廃局の形をとって局名を譲った(旧)世田谷郵便局は、明治37年3月末か4月初め(日付不明)に、世田谷若林郵便受取所として再設された。  
※後に、明治38年4月1日、世田谷若林郵便局(無集配三等)となる。

おわりに

仮説1から仮説7のほとんどが、今のところ物的証拠(資料・郵趣品等)の無い、いわゆる想像の産物です。今後、資料や使用例(消印等)の発見等が全てを証明してくれると思います。

資料・使用例(消印等)の発見・情報提供等に、是非、ご協力をお願い致します。

◆内地郵便印(日本郵便印ハンドブックより)

2-1	国内郵便印
2-1-2	明治初期の郵便印
2-1-2	2-1~5 大型検査済印/大型地名検査済印/大型地名類似検査済印/ 賃銭切手済印/不統一印
2-1-3	抹消印
2-1-3	3-1~6 記号入り番号印/白抜記号入番号印/白抜十時印/ クソフ十字印/小型ボタ印/大型ボタ印
2-1-4	日付印
2-1-4	4-1 二重丸型日付印
2-1-4	4-2 丸一型日付印
2-1-4	4-3 丸二型日付印
2-1-4	4-4 楕型日付印
2-1-4	4-5~7 三日月型試行日付印/超特急郵便印/丸型日付印/ 4-8~10 ローラー日付印/機械日付印/手押標語印
2-1-5	特殊日付印
2-1-5	3-1~11

●日付印

- 4-1 二重丸型日付印
- 4-1-1 1、使用局の多い形式  
①N1B1型②N1B1/K型③N1/K型/④KG型⑤KB1型⑥KB2型⑦dN3B2型  
⑧N3B3型⑨N3B3S型⑩
- 2、使用局の少ない形式  
①N1型~⑩DN3B1型~⑳N2型~㉑PN3型
- 4-2 丸一型日付印  
1、I、II、III、  
2、縦書丸一型
- 4-3 丸二型日付印
- 4-4 楕型日付印
- 4-5~7 三日月型試行日付印/超特急郵便印/丸型日付印/  
4-8~10 ローラー日付印/機械日付印/手押標語印

・分類因子について  
 普通因子 国名→K 年号→N 郡名→G 便号→B  
 特殊因子 東京→S 在外国日本郵便局→J 税済→P 事故→Z  
 年号・便号の二つはさらに次の様に细分される。  
 明治七のように「明治」の入った年号 →N1  
 八年のように「年」のはいった年号 →N2  
 一三のように数字のみの年号 →N3  
 午前、午後のように漢字の便号 →B1  
 い、ろ、はのように平仮名の便号 →B2  
 イ、ロ、ハのように片仮名の便号 →B3  
 さらに、D、dは円の大小のローマ字の頭文字



国名K 郡名G

KG型



大型D 国名K 年号N3

DKN3型



年号N1 国名K 漢字B1

N1B1K型

## ○世田谷領二十ヶ村

稲門 切手教室

世田ヶ谷にある彦根藩領の村は、彦根藩世田ヶ谷領二十ヶ村と称され、荏原郡と多摩郡にまたがる以下の村々を含んでいた。世田ヶ谷村、太子堂村、馬引沢村、新町村、弦巻村、小山村、上野毛村、野良田村、瀬田村、瀬田村、用賀村、宇奈根村、鎌田村、岡本村、大蔵村、八幡山村、横根村、岩戸村、猪方村、和泉村、

## ◇ペリー来航と世田谷

嘉永6年(1853)6月3日、ペリーが軍艦4隻を率いて浦賀に来航し、日本の開国・通商を要求した。江戸湾警備の任にあっていた彦根藩をはじめとする会津・川越・忍の四藩は、多くの藩士・領民を動員して警備にあたった。彦根藩世田ヶ谷領に対しても、御用荷物輸送のための人馬の動員が命じられた。この時は、彦根藩井伊家領世田ヶ谷20ヶ村から、まず人足160人、馬35匹が、ついで人足500人が徴発された。

翌嘉永7年1月16日、ペリーは再び浦賀に来航し、前回の来航の時よりも強硬な態度を示し、艦隊を神奈川沖に停泊させて幕府の回答を迫った。彦根藩は江戸湾の内海警備の任にあつたので、またも世田ヶ谷領20ヶ村に対して人馬の徴発を命じた。この時は、人足168人、馬30匹が動員され、ついでさらに、人足509人、馬36匹が動員されている。これらの動員は、世田ヶ谷領の村々にとっては重い負担であったので、村々からその免除を願い出る嘆願書が出された。

●ペリー来航と世田谷 1854年(嘉永7年)1月16日、ペリーは琉球を經由して再び浦賀に来航した。この時、世田ヶ谷井伊領20ヶ村に急発御用人馬の差出を命じられた。人足168人、馬30匹、名主世話人7人、ついで 神奈川御出馬御用として人足509人、馬36匹、であった。井伊領の村々は、「15歳から60歳までの者を残らず差し出しても、なお足りなく、一部には雇い上しなければならぬ有様で、これ以上の人足割賦を受けることは死活問題である」とのことで、触次の兩名は止む無く、免除方の嘆願書を出した。(世田ヶ谷区史)

明治11年 7月22日-群区町村編制法により、東京15区と周辺に6郡を設置した。

(1878) 15区-麹町区、神田区、日本橋区、京橋区、芝区、麻布区、赤坂区、四谷区、牛込区、小石川区、本郷区、下谷区、浅草区、本所区、深川区、  
6郡 -荏原郡、東多摩郡、南豊島郡、北豊島郡、南足立郡、南葛飾郡、  
※明治29年、東多摩郡と南豊島郡とが合併し、豊多摩郡が成立)→5郡に

明治22年 5月1日-市制・町村制→東京15区を東京市に、

(1889) 38村が整理統合されて6つの村になる。  
世田ヶ谷村、松沢村、駒沢村、玉川村、(以上、東京府荏原郡)  
砧村、千歳村(以上、神奈川県北多摩郡)  
・世田ヶ谷村-世田ヶ谷村、経堂在家村、池尻村、若林村、三宿村、太子堂村、  
下北沢村、代田村、(以上のほか、松原村飛地、赤堤村飛地、弦巻村飛地、  
瀬田村飛地)

※目黒村-明治22年5月1日、町村制の施行に伴い、三田村、下目黒村、中目黒村、上目黒村が合併して目黒村が発足。

大正12年 4月1日-町制施行により、世田ヶ谷村は世田ヶ谷町に

昭和7年 5月7日-世田ヶ谷区の新設。(世田ヶ谷町、松沢村、駒沢町、玉川村)

(1932) 10月1日-東京市は周辺の5郡を編入し、いわゆる大東京市が成立した。東京は35区に。  
同日-目黒区の新設。(目黒町と碑倉町)

昭和11年 10月1日-世田ヶ谷区に、砧村と千歳村が編入されて、今日の世田ヶ谷区の成立。

昭和18年 7月1日-東京府と東京市が廃止され、東京都が成立。

## ▽町名の名称由来 より

池尻-古くは、元和2年(1615)に池尻村として開村したらしい。地形上、昔この辺に池がありその畔であったことからついたらしい。明治22年(1889)に周辺の7つの村と合併した世田ヶ谷村の大字となり、昭和46年(1971)の住居表示完成により現在の町名となった。

## ▽東京府荏原郡における明治期の町村制施行時の変遷過程「世田ヶ谷村」編

第1次案-世田ヶ谷村と代田村

第2次案-代田村案が消滅。代田村に編入される予定の池尻村、若林村等が世田ヶ谷村に合併となる。

明治22年ごろの町村合併で、世田ヶ谷村は大きな村となった。

◆世田谷郵便局の沿革-続編 1

○「目黒郵便局」は、明治32年10月1日、どこに設置されたのか。

資料④(「世田谷郵便局 業務概要」)によれば、

世田谷郵便局の前身の「目黒郵便局」は、明治32年10月1日、『世田谷村大字池尻179』において開設された、とある。

※「目黒郵便局」の場所が、隣村の世田谷村池尻というのは不自然。

資料③(「全国郵便局沿革録」)によれば、

目黒郵便局は、大山上目黒村大橋に開局された、とある。

・開局理由

明治政府は「王政復古」の旗印の下に、神道第一主義を執り、神社に対し重い地位を与えた。上目黒大橋には、上目黒氷川神社があり、その地に郵便局が設置されたとも考えられる。しかし、目黒郵便局(上目黒村大橋)の開局の理由は、近くに「上目黒氷川神社」があったからということよりも、明治30年に「駒沢練兵場」ができたため、通信(郵便)利用の必要性が高まり、それに応えるために、郵便局が設置された、と考える方が妥当であろう。

・駒沢練兵場周辺の兵営

明治24年-騎兵第1大隊(後に連隊)

明治25年-近衛輜重(しちょう)兵大隊第1中隊(のち連隊)

※輜重兵とは、弾薬や食料の輸送を任務とする兵隊。

その後、野砲兵第1連隊營・近衛野砲連隊營・砲兵旅団司令部・野戦重砲兵第8連隊營ができて、主に、これらの軍隊が駒沢練兵場で訓練を受けた。軍事施設が出現して、三宿辺りには、兵隊やその家族相手の店や旅館が軒を並べるようになった。兵営の周辺が、ことに賑わったのは、兵役の交代期であった。

※問合せ先 目黒区区民の声課 区政情報コーナー 03-5722-9480

○目黒郵便局は、なぜ、5年足らずで廃止されたか。

目黒郵便局は、明治32年10月に設置されたが、僅か5年未満の明治37年3月には廃止された。何故、短期間で廃止されたのか。

・師団の兵力の編制の変化

日清戦争(明治27・8年)後、日露戦争(明治37・8年)に向けて、徐々に騎兵の兵力拡充が図られ、師団における騎兵の編制は5個中隊(1中隊=159名)からなる1個騎兵連隊が標準とされるようになった。

※騎兵の兵力拡充に伴い、師団における騎兵の訓練を行うためには、駒沢練兵場は施設・敷地の規模が小さく、手狭で不十分と考えられるようになったのではないかと推測する。

・騎兵第2旅団の沿革

騎兵第2旅団司令部と騎兵第15連隊・16連隊で構成されている。(駒沢練兵場の)騎兵第1連隊は、その隷下に加えられていた。

1899年(明治32年)-習志野の高津廠舎(たかづしょうしゃ)を仮兵舎として発足。

1901年(明治34年)-11月20日旅団司令部が千葉県津田沼村に開庁し事務を開始。

1902年(明治35年)-津田沼村大久保にて編成完了。

※時期は不明(調査中)だが、この頃に、駒沢練兵場の騎兵第1連隊等は習志野に移動し、駒沢練兵場の規模・組織(人員)が縮小されたのではないかと推定する。

駒沢練兵場の近くに開局された目黒郵便局は、その使命が終わり閉局されて、業務は近くにあった「世田谷郵便局」(池尻)に引き継がれたのではないかと推定する。

・歴代騎兵第2旅団長(少将)



← 第1代-閑院宮載仁(ことひと)親王

1901年4月2日~1904年9月21日(日露戦争時)

第2代-田村久井(たむらひさい)

1904年9月21日(日露戦争時)~1909年9月15日

※日露戦争

1904年(明治37年)2月8日~1905年(明治38年)9月5日

◆世田谷関連こぼれ話

◎日清戦争(明治27・28年)後、日露戦争(明治37・38年)に向けて、徐々に騎兵の拡充が図られていた頃、明治34年(1901年)1月、国家主義(右翼)団体の「黒龍会」が設立された。

黒龍会は玄洋社の海外工作センターといわれ、対露開戦を主張した。

後に、昭和6年(1931)大日本生産党(国粋ファシスト政治団体)を結成した。

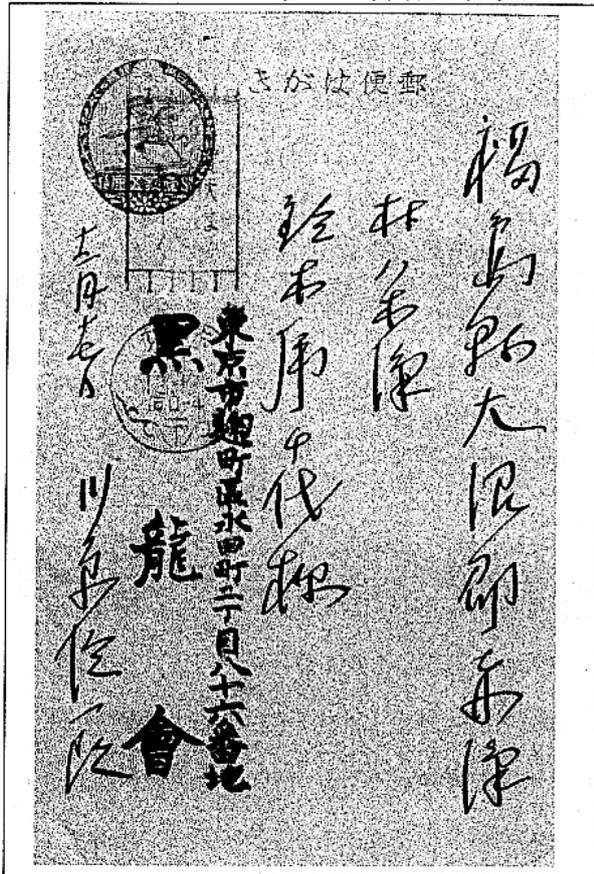
大日本生産党の本部は、当時の東京市麹町区永田町に置かれた。

その後、勢力を拡大し、大日本生産党は、大衆に密着し、党員2万人と称していた。しかし、徐々に内部対立等により、党員数は減少し、昭和17年(1942年)には、政治団体ではない思想団体の大日本一新会に改組された。

黒龍会は、昭和21年(1946年)GHQによって、最も危険な影響力のある国家主義団体として解散させられた。

▲黒龍会関連の残存郵便物は、あまり多くないと推測する。(私見)

赤坂 10 12.17 后0-4 年賀状はお早く



左記の葉書は、「黒龍会」が勢力を保ちつつも、内部対立等が行われていた時期に差し出されたもの。

- ・昭和6年-阿久津村事件で地主を応援し、大乱闘で5人死亡。
- ・昭和7年5月15日-犬養毅暗殺に際して、声明書により、擁護。
- ・昭和8年-神兵隊事件で青年部員が多数連座して検挙される。
- ・昭和11年-二・二六事件で北一輝が逮捕される。
- ・昭和12年-8月19日北一輝銃殺刑。

※黒龍会の機関誌は、「内外時事月函」、その記者の名目で上海に北一輝を派遣し、中国革命(孫文)を支援。

※玄洋社(1881~1946)

旧福岡藩(黒田藩)士が中心となって明治14年に結成されたアジア主義を抱く政治団体。

玄洋社の社則

- ・皇室を敬戴すべし
- ・本国を愛重すべし
- ・人民の権利を固守すべし

玄洋社の思想共鳴教育機関として国土館大学がある。

(本部は世田谷区世田谷)

玄洋社が輩出した著名な人物

- 川上音二郎、寺田栄、中野正剛、緒方竹虎、内田良平、広田弘毅、

付記:

明治の後半期、近代化の過程で生じた諸矛盾の解決を目指す政治団体として、平等を目指す二つの流れが生じた。一つは社会主義革命により平等を目指すとする流れ。もう一つは、天皇の下に万民は平等であるとする流れである。後者は、日清戦争や日露戦争を背景に、中華民国の成立や李氏朝鮮の近代化に関与した大アジア主義の潮流に乗る。思想的傾向は必ずしも反共主義ではなく、反欧米主義が強かった。この系統を引く団体(玄洋社を含む)は「正統右翼」と称される。

※右翼団体の分類:

概念右翼、正統右翼、任侠右翼、革新右翼、街宣右翼、宗教右翼、新右翼、行動する保守など

年次	世帯数	人口総数	男	女	人口密度(平方キロメートルあたり)	増加人口	人口増加率
大正14年10月1日	18,091	87,965	47,120	40,845	-	48,013	+1202
昭和5年10月1日	32,634	149,323	79,623	70,700	-	61,358	+698
昭和10年10月1日	42,515	210,701	107,041	103,660	-	61,378	+41.1
昭和15年10月1日	58,075	281,804	141,241	140,563	-	71,108	+33.7
昭和20年11月1日	-	276,450	138,182	138,268	4.701	-5,354	-1.9
昭和22年10月1日	89,094	356,170	179,228	177,944	6.056	79,720	+28.8
昭和25年10月1日	98,295	408,226	204,055	204,141	6.941	52,056	+14.6
昭和30年10月1日	123,986	523,630	265,557	258,073	8.904	115,404	+28.3
昭和35年10月1日	183,825	653,210	322,910	320,300	11.107	128,580	+24.7
昭和40年10月1日	226,179	742,980	379,654	363,226	12.682	89,670	+13.7
昭和45年10月1日	286,611	787,338	400,772	386,566	13.388	44,459	+6.0
昭和50年10月1日	301,603	806,787	409,027	396,760	13.702	18,449	+2.3
昭和55年10月1日	302,973	797,292	402,863	394,429	13.557	-8,485	-1.1
昭和60年10月1日	344,467	811,304	408,546	402,788	13.785	14,012	+1.8
平成2年10月1日	351,152	789,051	391,576	397,475	13.586	-22,253	-2.7
平成7年10月1日	365,041	781,104	381,305	399,799	13.449	-7,947	-1.0
平成12年10月1日	404,792	814,901	389,741	416,160	14.091	33,797	+4.3
平成17年10月1日	429,690	841,165	404,988	436,189	14.463	26,294	+3.2
平成22年10月1日	448,991	877,139	419,671	457,467	15.102	35,973	+4.3

資料:総務省統計局

●世田谷の人口  
 1932年(昭和7年)5月7日  
 世田谷区発足時 133,249人  
 35区中最小  
 1932年(昭和7年)10月1日  
 荏原郡は東京市に編入。同日、荏原郡は消滅。  
 荏原郡の分散編入先  
 世田ヶ谷、品川、荏原、目黒、大森、蒲田の6区へ。  
 目黒区発足:目黒町、碑倉町で構成。  
 世田谷区(新):世田ヶ谷町、駒沢町、玉川村、松沢村で構成。  
 1936年(昭和11年)北多摩郡船橋村、千歳村が世田谷区に編入。  
 1943年(昭和18)7月1日、東京都世田谷区。  
 1947年(昭和22)世田谷区は特別区に。  
 世田谷、北沢、玉川、烏山。  
 2016年(平成28)2月1日-世田谷区は東京23区中最多の908,812人となる。